

名古屋大学大学院国際開発研究科創立 25 周年記念国際シンポジウム

「新時代の国際開発研究と教育：持続可能な開発目標とその先」

日時：2016 年 7 月 29 日（金）

場所：名古屋大学野依記念学術交流館

大学院国際開発研究科(GSID)創立 25 周年を記念し、7 月 29 日（金）に、国際シンポジウム「新時代の国際開発研究と教育：持続可能な開発目標とその先」が野依記念学術交流館において開催されました。

国際シンポジウムでは、松尾総長が本学を代表して歓迎の辞を述べた後、前川喜平文部科学省事務次官、竹若敬三外務省国際協力局審議官他の来賓が研究科 25 周年を祝福するあいさつを行いました。基調講演では、ヨーロッパ最大の国際開発学拠点である英国マンチェスター大学グローバル開発研究所長であり、英国開発研究学会長でもあるデビッド・ヒューム教授が、国際社会が掲げる開発目標が「ミレニアム開発目標(MDGs)」から「持続可能な開発目標(SDGs)」に移行したことが、グローバルガバナンスの変化とどう連動しているかについて講演を行いました。その後、17 の SDGs の中から二つの目標（「包含的な経済成長の促進」および「平和で包含的な社会の促進」）について、世界で活躍する同窓生 10 名がラウンドテーブル・ディスカッションを行い、目標達成には何が必要かを議論しました。さらに、目標達成に向けてどのような研究を推進すべきであり、それをどう国際開発分野の大学院教育に反映すべきかについて、会場を含めて活発な討論を行いました。

基調講演するデビッド・ヒューム教授



会場の様子



記念国際シンポジウムには 38 か国から約 250 人の参加があり、その様子はウズベキスタン、カンボジア、タイ、インドネシア、フィリピンにライブ映像配信されました。国際社会の開発目標達成にむけて、GSID が研究と教育を通じて貢献するという強いメッセージを、国内外に発信する最良の機会になりました。1991 年の設立以来、合計 1,879 名を数える研究科同窓生の多く

が世界中で活躍していますが、彼らが本研究科の貴重な資産であることを改めて感じました。